

会議議事録

会議名	平成 25 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 25 年 11 月 3 日 (日曜日) 10 : 00 ~ 12 : 00 (2 h)
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①委員：佐藤文雄委員、島本厚子委員、野間 弘委員、保坂正春委員 (計 4 名) ②学校：藤野 裕 (校長)、橋本正樹 (副校長)、宮下昭久 (事務局長) (計 3 名) ③オブザーバー：真崎裕子 (評価研究機構事務局長)、金城義之 (評価研究機構参与) (計 2 名) ④事務局：高橋 稔 (校長室長) (参加者合計 10 名)
欠席者	藤井昌弘委員
配付資料	①事前送付：□平成 24 年度自己評価報告書 (大項目)、□平成 24 年度自己評価報告書 (小項目)、□評価基準書 Ver. 4.0 評価項目チェック項目一覧表、□平成 24 年度私立専門学校等評価基準書 Ver. 4.0、□平成 25 年度学校案内書・学生募集要項 ②本日配付：□委員名簿、□学校評価ガイドラインに基づく委託事業モデルの取扱いについて、□平成 25 年度学校運営の概要について、□川口学園の専門学校教育に関する基本文書、□平成 25 年度校務分掌組織図、□退学予防に向けた平成 24 年度の取組について、□平成 25 年度退学状況報告 (11 月)、□平成 25 年度授業公開の進め方、□主な検定の合格状況一覧 (平成 24 年度前期・後期、平成 25 年度前期)、□藤井委員よりの事前質問・意見、□職業実践専門課程資料、□学生の自己点検記入シート、□平成 25 年度学生生活ガイド、□平成 25 年度講義要項、□2-40 プロジェクトパンフレット、□校友会報
議題等	1. 校長挨拶 藤野校長より本委員会設置、編成の経緯及び本校の歴史と現況について説明し、開会挨拶とした。 2. 本日の出席者紹介 ①事務局より本校出席者が紹介された。 ②評価委員より自己紹介が行われた。 ③オブザーバーより自己紹介が行われた。 なお、真崎氏より、今年度の本校の学校関係者評価は、私立専門学校等評価研究機構による文部科学省委託の「専修学校の質保証・向上に関するガイドラインに基づく調査研究事業」として実施することについて説明があった。 3. 委員長の選出 保坂委員を委員長に選出し、委員会のまとめ役をお願いすることとした。 4. 学校関係者評価の目的と委員会へのお願い (説明者：事務局高橋)

事務局より、委員就任のお願い文書に基づき、本校が行ってきた自己点検・自己評価活動、第三者評価、結果の公表等の学校評価の取組の経過と考え方について説明があり、本委員会の報告を本校教育と学校運営の改善に役立てるために、重点目標や自己評価の結果、課題の改善方法等について、サポーターとしての視点から評価や助言を行うことについて確認、了承された。

5. 学校関係者評価委員会の進め方についてご説明（説明者：事務局高橋）

事務局より、本委員会の通常年度の進め方及び平成 25 年度の進め方について説明があり、11 月 2 回、12 月 1 回の開催、次回は報告書案について検討することについて確認、了承された。

6. 平成 24 年度自己評価報告書について説明及び質疑

校長より本校の建学の精神に基づく教育理念、教育目標及び平成 25 年度の重点目標と実施経過について説明、また事務局より平成 24 年度自己評価報告書（大項目）の概要について説明の後、以下の順に質疑が行われた。詳細は、別紙のとおり。なお、追加があれば事務局宛にメール送信することとした。

- ①教育理念、教育目標
- ②重点目標
- ③項目別取組状況

7. 次回日程、その他

- ・次回：11 月 17 日（日）10:00～12:00 会場は本校 1 階会議室

以上を確認して閉会した。閉会后、希望する委員は校内見学を行った。

以上

別紙

第1回学校関係者評価委員会の主な討議内容

- 平成24年度自己評価報告書についての質疑は以下の通り。
- 校長より、配付資料に基づき本校教育の基本的考え方と学校運営の流れ、学校運営方針と重点目標の説明が行われた。
- ・川口学園の専門学校教育に関する基本文書に、本校の建学の精神「不偏不羈」、教育理念、教育目的、教育目標を明示している。
 - ・これに基づき年度毎に事業計画を策定し、事業計画に基づき学校運営方針を作成している。
 - ・学校運営方針には2-40プロジェクトの名の下に本校における2～3年間の学びを通して、卒業後の40年間をしっかりと働ける人材の育成を目標にしている。
 - ・社会人基礎力を実現する3要素としてTPC(考える:Think、積極性:Positive、対話力:Communication)を掲げ、学校運営方針に明記している。
 - ・これについては年度初めの学科長会議、担任会、全教師会で説明、周知している。
 - ・各学科においては学校運営方針に基づき学科運営計画を作成している。内容は学科の教育目標、育成する人材の業界ニーズへの対応に向けた取組、前年度の自己点検結果への取組、校外実習を行う場合はその年間計画、学科における就職指導計画、学習成果目標(資格取得率、就職率、退学率)、カリキュラム改善への考え方など。
 - ・日常の教育活動、学生指導は各学科の所管で行うが、全校的には校務分掌を定めて役割分担し、全ての教職員が一致協力して学校運営に当たっている。
 - ・なお卒業生に対してはアンケート、卒業生向けの講座も開催している。
 - ・25年度の重点目標を以下として実現を目指している。
- (1) 退学防止：
- ・退学防止に向けた年間の退学率4%以下を数値目標とした。退学は、20年度までは4～5%台だったが、21～22年度に7%台となったため、23年度から学科長会議を中心に組織的な取り組みを行った結果、23年度は5%台、24年度は4.4%の結果となった。10月時点の退学率は2.2%である。
 - ・カウンセラー設置、入学時オリエンテーションの充実、担任による前期全員面談などの23年度以降の具体的な取組について説明。
- (2) 教員研修：
- ・教員個々人のインストラクションスキル向上に努める。
 - ・教授力の向上を目指して、24年度から教員研修の一環として授業公開を始めたが、なかなか広がらない、参加しやすい仕組みを模索している。
- (3) 検定指導：
- ・検定指導、医療事務系は学生数が多いのでそこから数値目標を設定。
 - ・医療秘書検定は重要な位置づけにある。時間割を変更するなどして受験準備を行い、過去問の分析他も行って、1年生は在籍者数の90%以上を3級に合格、2年生は在籍者数の70%以上を2級に合格させる。
 - ・重点目標と対応策、また自己点検の大項目に添って意見をいただきたい。

○委員長より、各委員に事前送付された資料が膨大なため、読み込む時間内がなかったと思うが、平成

24年度自己評価報告書（大項目）の記載の順番に質問、意見を伺いたいとの発言の後、質疑応答を行った。

- 重点事項で掲げている退学率4%以下の根拠について質問があり、学科運営計画には前年度実績以下を目標にしていること、23年度以降の対策が功を奏して24年度には4.4%となったため、それをベースに4%以下を目標にした。また一般的には5～7%と言われていることについて説明が行われた。
- 退学理由では健康と学業不振が多いようだが、健康は心理面か、カウンセラー以外の対応は何か、学業不振の中身は具体的にどうなのかとの質問があり、身体面、心理面の両方あるが、最近では心理面を理由とするケースが増えていること、入学時オリエンテーションを充実させ、グループ作り、友人作りをしていること、学業、成績不振は、退学となる場合は長期欠席、試験不合格となることが多く、それが理由に反映していることについて説明が行われた。
- ミスマッチ起こさない入学前の対応について質問があり、オープンキャンパスでの説明をしっかりとすることに力を入れていること、教員は勿論だが、在校生、卒業生にも協力してもらい、様々な視点での説明、質問への回答、懇談などを行っていることについて説明が行われた。
- データでは9月退学者多いが、秋口の対応を強化してはどうかとの質問があり、9月退学は手続き上のズレであり、秋口の退学ではなく、夏休み前～夏休みのデータである。最近では学業面では特に問題がなく、検定を取得して、前期で辞めるというケースもあるとの説明が行われた。
- 専門学校の退学は高校の進路指導との関連もある。高校でしっかりと指導すれば良いが難しいのが現状。また、高校の現状については、学校によって全然違い、退学が絶対だめというものでもないとの発言があった。
- 入学時のオリエンテーションを工夫しているとのことだが、具体的に何をやっているのかとの質問があり、各学科でそれぞれ計画し、学科の特徴を出して実施していること、話し合いをしてクラス目標を設定して掲示したり、全員で歩いて本校付近の緊急避難場所を確認したり、アイスブレイクを行ってお互いのコミュニケーション図ったり、ガイドラインに基づく校内マナーに関する指導やロールプレイを行ったりと様々であること、特に、友達作りをキーワードとした取組を各学科で工夫して行っていることについて説明が行われた。
- これについて入学後の学生対応は担任が中心になると思うが、担任の経験や考え方によって対応に差があるのではないかととの質問があり、担任は基本だが、学生対応は担任一人ではなく、学科長、学科所属の他の教員、また兼任の先生方にも協力をお願いして全体で関わるようにしているとの説明が行われた。
- また、学科別に退学者の特徴などはあるのかとの質問があり、その観点では分析していない、学科長による学科内での分析、対応に止まっている、現在は、退学と入学のモチベーションと入学試験区分の相関を中心とした分析を行って、特徴、傾向を掴んでいるとの説明が行われた。
- これに対して入学前とのイメージが違うことを理由とした退学もあるようなので、学科の特徴、傾向も分析して、入学案内や募集資料の検討に活かしてはどうかとの提案があり、学科別の退学者の特徴、傾向も調査、分析してみるとの回答が行われた。
- 重点目標3項目と学校運営方針との関連よく分からない、運営方針はもっと大枠でよいのではないかと、また、社会人化教育を柱にしているのであれば具体的なものを重点目標にも挙げるべきではないかとの質問があり、もともと専門教育と社会人化教育を2本柱としており、社会人化教育は基本方針にあり年度初めに説明、周知しているため、重点目標には特に記載しなかったが、運営方針と重点目標の関連をもう少し整理し、より分かりやすくすることを課題として検討したいとの説明が行われた。

- 重点目標に検定合格率の数値目標を医療秘書検定に特化している理由は何か、他学科はどうか、また、1年生の3級90%以上、2年生の2級70%以上は妥当な目標なのかとの質問があり、各学科では学科運営計画に目標を定めてそれぞれ取り組んでいるが、医療事務系学科が共通で取り組んでいる医療秘書検定のボリュームが圧倒的に大きいので、学校全体の牽引の役割を持たせている、まずは全体の底上げがある、また1年生はモチベーションの意味も持たせており、初期での3級合格を狙っており、目標としては妥当と考えているとの説明が行われた。
- 医療秘書検定は既習で受験しているのか、全体の合格率、難易度はどうかとの質問があり、1年生の6月に3級を受験しているが、時間割変更も行って必要な授業を検定前に集中して実施した上で受験している、配付資料にもあるように各検定の実施回毎の結果はデータ化してある、今年6月検定の本校1年生の結果は3級が74.7%だったが、検定協会が公表している全国の合格率は70.4%であり、全国平均を上回る結果であった。6月検定の2級合格率が低い理由は、1年生の11月受験で不合格となった学生の結果であることもある、受験者数も少ない、昨年の1年生の11月検定2級の合格率は79.5%であり、全国平均の67.%を上回っているとの説明が行われた。
- 検定を目標としない学科はあるのか、その場合は初期のモチベーションのためにどんな対策をしているのかとの質問があり、国家資格の取得を目標としている学科は、授業の関連で学生の意思で他の検定を受験することはあるが目標としての重点的な対応はしていないこと、入学した目標である資格取得を目指すことを授業の中で繰り返し動機付けしていること、また、例えば介護福祉科は校外実習があるが、前期の「実習事前指導」が大事な目標となっていることについて説明が行われた。
- 報告書大項目4～5ページ、社会人化を推進して、コミュニケーション能力を高めることを説明しているが、具体的にどのような工夫をしているのかとの質問があり、特に授業の工夫を常勤、兼任を問わず先生方をお願いしている、一方的な講義だけでなく双方向、教員と学生のコミュニケーションを意識した授業展開をお願いしているとの説明が行われた。
- 卒業生を受入れる側として、目上の人ときちんと話ができない新人が多いことを問題意識として持っている、学校での普段の教員の接し方を改めて意識するためにも、教員（上司）役と学生（部下）役のロールプレイなども必要ではないかとの質問があり、これに対し、校外実習がある学科は、実習を利用して行っており、実習の事前指導と事後指導をしっかりとやっていること、現在は2年生後期のキャリアデザインの中で卒業—就職に向けた指導を行っているが、指摘いただいた点の充実も検討課題である。社会人化、コミュニケーション、挨拶、言葉遣いということでは、キャリアデザイン科目の中で学生の自己点検も行っていること、入学時と授業期の始めと末に4回、項目毎に振り返り、自覚して考えることを行っていることについて説明が行われた。

また、本校では23年度から年間を通して常勤教員が交代で、毎朝玄関で挨拶と声掛けを行う朝の挨拶運動行っている。今年で3年目を迎えているが、学生の反応も変わってきている、着実に成果は出ており、今後も地道にやって行くつもりであるとの説明が行われた。
- 高校では、授業よりは学校行事や部活動の先輩、後輩の関係で切磋琢磨する中で身に付けるウエイトが高いと思う。また、小学校、中学校、高校で挨拶を重点目標にしているところは多い、最近は、コミュニケーションは挨拶からなどと言って大学でもやっているとの意見があった。
- 介護の分野では状況に合わせた挨拶も求められる。具合が悪い利用者に元気な声でという訳にはいかない。相手を察知する能力、相手に合わせる、見極めることが必要であるとの意見があった。
- 報告書大項目16ページ、学習成果に記載の就労状況調査の結果概要を知りたいとの質問があり、2-40プロジェクト関連で医療事務系学科と介護福祉科の平成2～22年卒業生に対して調査を行ったが、

発送は 4939 通、回収は 386 通、回収率は 7.8%であり、アンケート項目の関係から就労率そのもののデータはとれていないが、例えば勤続 15 年で係長、主任クラスの方が相当数いることが分かったとの説明が行われた。

- また、大卒 3 年目の就労状況に関する調査結果が公表されていたが、本校離職率はどうか、医療事務系学科と介護福祉科だけでなく、他の学科も調べて欲しい、また以前の調査で本校の 5 年間就業率が 90%だったような記憶がある、継続率も見て欲しいとの質問、意見があり、データにはしていないが、校外実習のある学科については、常勤教員他が実習巡回をしており、その際に卒業生の就職先であれば、卒業生の様子他について責任者の方にヒアリングして、レポートに記録しており、それらの記録からは離職率は低く、公表された 30%台と言うことはない、今後のデータの取り方を工夫したいとの説明が行われた。
 - 報告書大項目 21 ページ、保護者との連携に記載の保護者対応について、例えば保護者会など、最近では大学でも色々やっているがどうか、また成績は保護者に知らせているのかとの質問があり、国家試験対応の意味から鍼灸医療科では必要な時期に実施しており、三者面談もやっているが、他学科では行っていないこと、以前は保護者が訪ねて来ることは殆どなかったが、最近では様々なケースで保護者が来校されていること、また鍼灸医療科では本人に了承の上、成績表を保護者に送付しているが、他学科は本人に直接手渡しを行っていることについて説明が行われた。
 - 報告書大項目 20 ページ、経済的支援に記載の学生支援機構奨学金の種別はどうなっているか、また川口学園の奨学金受給者が少ないのに理由はあるのかとの質問があり、学生支援機構の奨学金受給者 154 名中、無利子の 1 種が 25%、有利子で金額が選択できる 2 種が 75%であること、学生支援機構の奨学金受給者が増えているが、全体の 80%が高校での予約採用者で、入学後は 20%であること、このせいもあってが、本校奨学金は無利子だが、追加して申請する学生は少なくなっていることについて説明が行われた。
 - 報告書大項目 10、11 ページ、教育方法、評価に記載の授業アンケート結果、教授力向上、兼任講師との連携についてはどのようなことを進めているのか、また教員の PC スキル向上などの研修が必要ではないかとの質問があり、授業アンケート結果については次回報告すること、教授力については、全校的には毎年度始めの全教師会や科会を通して、また各学科長からも、分かりやすい授業の工夫を常勤教員と兼任講師にお願いしているが、反面、分かりやすくなり過ぎると返って学生の学習意欲を下げってしまうという面もあり、歯ごたえのある問題解決型の授業も必要と考えていること、また、研修については、現在は、常勤教員の授業公開、参観を利用した自主的な取組と、学生相談をお願いしているカウンセラーを講師にしたメンタルヘルス研修に力を入れているが、今後は職業実践専門課程の関連からも企業等と連携した研修が必要要件となることもあり、積極的な取り組みが課題と考えていることについて説明が行われた。
- また、現実的な問題としては、教員が忙しくて時間が取れないということがあり、授業期間中の実施は難しいため、全体研修は休暇期間中に実施していることについても説明が行われた。
- これに対し、常勤教員が忙しいことは良く理解している。兼任講師の活用をもっと積極的に検討してはどうかとの意見があった。
 - 最後に、委員長より次回は本日の話し合いと事前にいただいたご意見をもとに作成した報告書案について検討する旨の説明があり、閉会した。

以上

会議議事摘録

会議名	平成 25 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 25 年 11 月 17 日（日曜日）10：00～12：00（2 h）
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①委員：佐藤文雄委員、島本厚子委員、野間 弘委員、藤井昌弘委員、保坂正春委員（計 5 名） ②学校：藤野 裕（校長）、橋本正樹（副校長）、宮下昭久（事務局長）、中村博臣（くすり調剤事務科学科長）、飯岡理絵（介護福祉科学科長）（計 5 名） ③オブザーバー：真崎裕子（評価研究機構事務局長）、金城義之（評価研究機構参与）（計 2 名） ④事務局：高橋 稔（校長室長） （参加者合計 13 名）
欠席者	なし
配付資料	①事前送付：□第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□学校関係者評価報告案 ②本日配付：□学校関係者評価の実施に関する細則、□平成 24 年度就職内定状況報告 □2-40PT 卒業生・就職先へのアンケート調査資料、□平成 24 年度前後授業アンケート集計結果報告（抄）、□平成 24 年度学校生活に関する調査結果報告（抄）
議題等	1. 校長挨拶 開会に先立ち、藤野校長より本日の出席及び前回の意見交換と助言への謝辞と挨拶が行われた。 2. 事務局より本日初参加出席者の紹介 ①事務局より藤井評価委員が紹介された。 ②事務局より学科長 2 名が紹介された。 3. 前回委員会議事録の確認 保坂委員長より、前回議事録について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。 4. 学校関係者評価報告案の検討（説明者：事務局高橋） 最初に本日配付した報告案の補足説明資料と本委員会規定である「学校関係者評価の実施に関する細則」の確認、報告文書の形式と記述方法について事務局から説明が行われ、確認、了承された。 次に、保坂委員長より、学校関係者評価報告案について、重点目標、各評価項目の順に項目毎に質疑するとの説明があり、事務局の補足説明を受けながら各評価項目に検討を行い、学校関係者評価報告が確認、了承された。 なお、報告文書の最終的な整理とまとめについては保坂委員長に一任することについても確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

5. 次回の予定（説明者：事務局高橋）

事務局より第3回委員会の議題等について以下の説明があり、確認、了承された。

- ・自己評価報告書への追加事項について
- ・学校関係者評価委員会報告に基づく検討と改善の方向性について
- ・モデル事業部会への報告について
- ・その他関連事項

6. 次回日程、その他

・次回：12月22日（日）10:00～12:00 会場は本校1階教室を予定
以上を確認して閉会した。

以上

別紙

第2回学校関係者評価委員会の主な討議内容

- 平成25年度学校関係者評価報告案についての質疑は以下の通り。
- 最初に事務局より、報告文書の書式について以下の説明が行われた。
 - ・書式はモデル事業の指定のものであり、委員長から校長に提出する形式となっている。
 - ・報告書の記述は、第三者評価報告書の記述方法を参考にしており、評価項目毎に本校の自己評価のまとめ部分を記述して確認することに併せて、前回委員会での質疑と事前に提出いただいたご意見のあった部分はそれを記述する形とした。
 - ・ご意見に基づく記述部分には網掛けをしてある。
- 以下、評価項目毎に事務局より報告文章を読み上げ、質疑を行う形式で進められた。

I 重点目標

- 表記上のことだが、TPC、東専各などは最初の記述部分に正式な名称、説明を記述した方が良いとの意見があり、修正することとした。
- 前回基本方針として説明されたことが重点目標の全体記述になっていることについて質問があり、指定書式に従ったものであり、これに合わせて整理、記述しているとの説明が行われた。
- (1)退学防止については記述の通り確認された。
- (2)教員研修に記述の休暇期間は学生の休暇期間のことかとの質問があり、学生の休暇期間であることから「学生の」を追記することとした。
- (3)検定指導について、医療事務分野以外の学科についての目標値は決まっているのかとの質問があり、学科運営計画に記載しているとの説明が行われた。

II 各評価項目

1 教育理念・目的・育成人材像

- (1)教育目標の記述方法が分かりづらい、職業教育の推進とそれに必要な能力を養成するということかとの質問があり、そうであることから4項目だけでなく、基本文書に記述の全文を記述することとした。

2 学校運営

- (1)運営方針の2-40PTは何年前から掲げているのか、今後も継続するのか、年度毎に掲げるのかとの質問があり、2-40PTは22年度後期から掲げている、TPCは昨年度からのもの、始まったばかりであり、今後ももっと浸透させなければならないと思っているとの説明が行われた。

3 教育活動

- 事務局より、評価項目が多いが、全て要求項目として捉え、自己評価していること、また、前回宿題の授業アンケートについて、本日の配付資料をもとに24年度後期のアンケート内容、実施報告、集計結果等について説明が行われた。
- (1)教育課程について、講義要項の記述に際しては毎年学科長から相談はあるのか、また、他の科目との関連はどう調整しているのかとの質問があり、新規科目の場合は相談しているが、継続の場合は

変更をお願いする場合など、特に必要なことがなければ各先生にお任せしている、また、他の科目との調整は、科会や全教師会を通じてお願い、話し合いをしているとの説明が行われた。

- (3)授業評価は、教員側からの評価はしているのかとの質問があり、一つは成績評価であること、また学科の定期的な担任会等で随時話し合い、状況を把握していることについて説明が行われた。
- 授業アンケートは高校でも以前からやっており、積極的に活かすには個々の先生の考え方や意識があるが、各先生がこのアンケートを活かした具体的な取組はあるのかとの質問があり、各授業の中で教員個々が取り組んでいる、その結果平均値なども上がっている、自由記述は学生の生の声としてそのまま伝えて役立てていることについて説明が行われた。

また、教員はそれぞれ自分の授業の一環でそれぞれアンケートなどを行っている例もあること、全体のアンケートをより有効にするために、授業期中盤での実施の可能性などを検討していることについても説明が行われた。
- 座学と実技科目との関係、兼任と専任との関係もあり、難しいことも多いと思うがしっかりとやって欲しいとの意見があった。
- (5)資格・検定試験については、資格・検定に対する認識や知識のギャップが教員と学生にあるように感じている。教員はこう説明しているが現場ではこう言っているということがあるようだ。アンケートなどで確かめてみてはどうかとの提案が行われた。
- (7)研修について、授業公開を学科内でやるのは良いと思う、終了後の話し合いが大切だが大変ではないかとの質問があり、授業公開をアンケートの次ステップとして捉え、実施を始めた、去年、一昨年と試行錯誤し、今年は学科内でお互いの授業を見学することとしている、また、学科の担任会での話し合いを利用して話し合いをしていただき、その上でレポートを出してもらうようお願いしていることについて説明が行われた。
- 科会の開催頻度について質問があり、現状は年度初めに全学科で開催している、後期は各先生方の日程調整が難しく、一部学科の開催となっていることについて説明が行われた。
- 授業公開の効果はどうか、兼任講師も実施するのかとの質問があり、見学すること、見ていただくことそのものに気付きや発見があり、効果は言うまでもない、しかし、まだ常勤教員でも十分な実施ができていないため、25年度は学科内でしっかりとやっていただくことにしている、兼任講師への拡大は今後の検討課題であることについて説明が行われた。

4 学修支援

- (1)就職状況について、事務局より本日の配付資料をもとに24年度の内定率98%、正社員就職率97.1%の説明が行われた。また、卒業生の就業状況が前回話題になったことに関して、以前実施したアンケート依頼文書を本日、資料として配付した旨説明が行われた。
- 高校の立場では、雇用形態が多様化していることもあり、就職状況、特に雇用形態に関心がある、本校の実情はどうかとの質問があり、正社員就職率は無期雇用での就職率であり、契約などは含んでいない、採用先によっては有期、契約のみということはあるが、その場合は本人に確認、納得の上であり、それが3%、7名であるとの説明が行われた。
- また、卒業者数に対して求職者数が少ないように思うが、以前はもっと求職者数が多かったように思うとの質問があり、例えば医療マネジメント科は本校診療情報管理専攻科への進学があり、もともと求職者数が少ないことについて説明が行われた。

併せて、それ以外は求職者が減っている印象はなく、ここ数年変わらない、ただ、最近卒業が精

一杯で、なかなか就職まで届かない学生が以前よりは目立つようになっていることについて説明が行われた。

- 医療事務系で言えば、コンサルで伺っている病院での本校卒業生の評価は高い、それだけに、現場の生の声をいかに教育や学生指導に反映させるかが重要だろう、先輩からの様々な要望もあるはずとの意見があった。

5 学生支援

- (1)就職支援については、子供はキャリアサポートセンターに世話になった。細かいところまで支援していただいたとの発言があった。
- (3)学生相談で専任カウンセラーによる相談の効果についてはどうかとの質問があり、今までは保健室との連携はあるものの担当が主に一人で対応していたが、開設後は月2回ではあるが、3者、3人4脚での対応ができています、また、学生だけでなく担当が相談することもあり、別の効果もある、最近カウンセラーに相談しない学生もいることから、教員がカウンセラーに相談して学生対応を行うことでの効果もあるとの説明が行われた。
- これに対して、高校でもカウンセラーが導入されている所では教員が生徒の相談をしている例はしばしばあるとの発言があった。
- 相談件数と具体的な相談内容について質問があり、本日は資料を用意していないが、学生委員会で所管し、半期毎に学科長会議に報告されている、50件程度と記憶しているが、次回、資料配付するとの説明が行われた。
- また、ガイドラインに求められているから体制をとっているのかとの質問があり、相談体制を整備することが要求事項ではあるが、学生の現状から教員だけでは対応できないこともあり、専門の相談体制が必要であると判断したことから整備したとの説明が行われた。
- (8)卒業生支援については、校友会も資金難という現状がある。会報も以前は毎年だったが今は2年に1回になっている。とは言え60年続いており、専門学校としては頑張っている方だと思ふとの発言があった。

6 教育環境

- (1)施設・設備については、学生にアンケートを行っている聞いたがどのようなものかとの質問があり、「学校生活に関する調査」を年度末に実施しており、本日の資料にアンケートの実施報告の概要を配付した、過去にはアンケート結果に基づいて施設・設備の改善を図った例もあるとの説明が行われた。
- 事務局より、専門学校におけるインターンシップについて説明が行われた。
- (2)学外実習・インターンシップについて、インターンシップ中の学生フォローはどうなっているのかとの質問があり、月1回の登校日、月間報告書の提出、学生の身分であることについての事前指導の徹底、問題が発生した場合は学校が対応することを周知していることについて説明が行われた。
- これに対して、インターンシップ先にもいろいろある、学校側のフォローが大切との発言があった。
- 学外実習はどの程度必要とされ、どのように組み込まれているのかとの質問があり、法令指定されているものはそれに従って実施している、それ以外はカリキュラムに規定して実施している、例えば医療事務系学科の場合は4週間4単位であることについて説明が行われた。
- また、学外実習をしない学科はあるのかとの質問があり、鍼灸医療科は学校内に治療院があり校内で

実習している、くすり調剤事務科は登録販売者の受験資格取得のための1年間の実務経験があるが、これは実習とは異なるとの説明が行われた。

- 学生が放課後自習などをする場所はあるのかとの質問があり、授業期間中は、午後7時まではPC演習室と自習できる教室を用意している、図書室は10時から18時まで開室していることについて説明が行われた。

7 学生の募集と受入れ

- 特に質疑はなかった。

8 財務

- 特に質疑はなかった。

9 法令等の遵守

- (6)教育情報の公開については学校による差が大きい。専門学校への指導が十分ではない高校もある、また、進路指導の正確な情報がなかなか伝わっていない現状があると思う、本校もどんどん透明度を高めて欲しいとの意見があったが、本校は勿論のこと、ガイドラインにより専門学校も大学並みの情報がオープンになるとの説明が行われた。
- また、例えば保護者会などはその必要性については、教員の意識と外から求められているものとのギャップが大きいように思うとの発言があった。
- 入学案内書にいろいろな情報が掲載されてはいるが宣伝物であり、客観的なものとしては今回の自己評価や学校関係者評価の結果だと思うが、どの程度公表されているのかとの質問があり、本校は平成20年度以降、自己評価報告書(大項目)の全文をホームページに公表している、23年度の文部科学省の調査では、公表は高等課程を併せて全国で17%程度となっているが、本校のような形態でホームページで公表している所は全国でもそう多くはないと思う、また、本校は短大法人でもあるので法人のホームページに財務情報も公表していることについて説明が行われた

10 社会貢献・地域貢献

- 特に質疑はなかった。

- 保坂委員長より、他に質問、意見がなければ本日の検討はこれで終了し、本日の質疑結果を加え、字句修正も行って報告書をまとめるが、最終的な確認は委員長に一任して欲しいとの発言があり、確認、了承された。

以上

会議議事摘録

会議名	平成 25 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 25 年 12 月 22 日 (日曜日) 10 : 00 ~ 12 : 00 (2 h)
場所	本校 1 階 1 階 101 教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：佐藤文雄委員、島本厚子委員、野間 弘委員、藤井昌弘委員、保坂正春委員 (計 5 名)</p> <p>②学校：藤野 裕 (校長)、橋本正樹 (副校長)、宮下明久 (事務局長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、菊池聖一 (医療マネジメント科・専攻科学科長)、中村博臣 (くすり調剤事務科学科長)、飯岡理絵 (介護福祉科学科長)、檀 貴与 (鍼灸医療科学科長)、(計 9 名)</p> <p>③オブザーバー：真崎裕子 (評価研究機構事務局長)、金城義之 (評価研究機構参与) (計 2 名)</p> <p>④事務局：高橋 稔 (校長室長)</p> <p>(参加者合計 17 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付：□第 2 回学校関係者評価委員会議事録</p> <p>②本日配付：□第 2 回学校関係者評価委員会議事録 (再)、□平成 25 年度学校関係者評価委員会報告、□報告に示された意見・課題への取組・改善の進め方、□職業実践専門課程申請書別紙様式 1 への記述、□平成 25 年度の職業実践専門課程の申請に関する年間スケジュール、□平成 25 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録、□学校評価ガイドラインに基づくモデルの開発・実証事業経過報告、□専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン、□平成 25 年度前期学生相談コーナー中間報告、□平成 25 年度後期アンケートの実施について、□専修学校における学校評価のイメージ例による来年度のスケジュール</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>開会に先立ち、藤野校長より本日の出席及び前回の意見交換と助言への謝辞と挨拶が行われた。</p> <p>2. 事務局より本日初参加出席者の紹介</p> <p>事務局より、本日初参加の速記コンピュータ科、医療秘書科、医療マネジメント科・専攻科、鍼灸医療科の学科長 4 名が紹介された。</p> <p>3. 前回委員会議事録の確認</p> <p>保坂委員長より、前回議事録について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。</p> <p>なお、事務局より、前回質問のあった学生相談コーナーの利用状況について配付資料の「平成 25 年度前期学生相談コーナー中間報告」に基づいて説明が行われ、確認、了承された。</p>

4. 平成 25 年度学校関係者評価委員会報告の確認（説明者：事務局高橋）

保坂委員長より報告書と公表のスケジュール等について最終確認をしたい旨の発言があり、事務局より、配付資料に基づき以下の説明が行われ、確認、了承された。

- ・事前送付し、最終確認をお願いした本委員会の報告書について、委員の皆さんからの訂正意見はなかった。
- ・報告書は全文を校長名の公表文書と共に 12 月初より本校のホームページ上で公表している。

5. 「自己評価報告書（点検大項目）」への学科長、部門長の点検に基づく追加について（説明者：事務局高橋）

事務局より、配付資料に基づき、既に報告の通り、本校では学校全体と並行して各学科長、事務局部門長による自部署の点検・評価を 11 月に実施し、12 月に整理ができた。その結果から、第 1 回委員会に報告した「自己評価報告書（点検大項目）」の以下の 2 項目にそれぞれ次の点検結果を追記することについて説明が行われ、確認、了承された。

- ・3-11-2：資格・免許取得の指導体制はあるかの 4. 資格取得に以下を追記する。

なお、介護福祉士養成校卒業者への平成 26 年度入学者からの国家試験適用開始に伴い、介護福祉科において受験指導と支援体制の整備に向けた準備を開始した。

- ・6-24-2：学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているかの 4. 教育活動の安全対策に以下を追記する。

学校安全計画による防犯体制の明確化と授業中の事故対応マニュアルについて検討を進める予定である。

なお説明に対し、学校安全計画は大事なものであり個々には作成、対応していたというところだが、例えば地震発生時の対策などはどうかとの質問があり、災害関係は防災計画で詳細について対応済みであり、今回は防犯を対象としたもので、防犯カメラ等の設置は進めているがそれらを明記するためとの説明が行われた。

6. 学校関係者評価委員会報告に基づく検討と改善の方向性について（説明者：事務局高橋）

最初に事務局より、配付資料に基づき 11 月自己点検・自己評価委員会、12 月学科長会議において検討、確認し、12 月校務運営会議において決定した、本委員会報告に示された意見・課題への取組・改善の進め方について説明が行われた。

また、配付資料に基づき、企業等の委員からの提案に対する進め方は、職業実践専門課程申請書にも記載していることについて説明が行われた。

次に、保坂委員長より、重点目標、各評価項目の順に項目毎に質疑するとの説明があり、事務局の補足説明を受けながら各評価項目の質疑を行い、本委員会報告に基づく検討と改善の方向性が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

7. 職業実践専門課程への申請について（説明者：事務局高橋）

事務局より、配付資料に基づき、医療秘書科、医療マネジメント科（2 年制）の申請書類を 12/13 に豊島区に提出したことについて報告があり、確認、了承された。

併せて、校長、医療秘書科、医療マネジメント科学科長より教育課程編成委員会での意見の概要と学科としての受け止めなどについて追加説明が行われた。

8. 本委員会のモデル事業としての経過報告について（説明者：評価機構金城氏）

私立専門学校等評価研究機構の金城氏より、配付資料及びパワーポイントに基づき報告があり、確認、了承された。

9. 情報提供について（説明者：事務局高橋）

事務局より、配付資料に基づき専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインに基づく情報提供を12月以降、本校のホームページにおいて行っていることについて説明が行われた。

また、本校の情報提供ページをスライド映写により全員で確認し、ガイドラインに乗っ取った情報公開が行われていることが確認、了承された。

10. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

事務局より、配付資料に基づき以下の説明が行われ、確認、了承された。

- ・文部科学省のガイドラインの公表に伴い、前年度の自己点検・自己評価に基づく重点項目の設定とPDCAサイクルによる改善の仕組みが明確になったため、本校の自己点検・自己評価のスケジュールもガイドラインに合わせた形で進める。
- ・本委員会は、今年度は職業実践専門課程への申請等により10月～12月に3回という変則な開催となってしまったが、平成26年度は自己点検・自己評価のスケジュールに併せて、年間で3回（5～6月、10～11月、2～3月を基準）の開催を計画している。
- ・また、今年度は私立専門学校等評価研究機構による文部科学省委託の「専修学校の質保証・向上に関するガイドラインに基づく調査研究事業」として実施したが、来年度以降は本校事業として実施する。
- ・次回は平成26年度初回の委員会となり、5～6月上旬を予定している。
- ・テーマは平成25年度活動の自己点検・自己評価結果（改善報告を含む）と平成26年度の重点目標について説明し、ご意見を伺うことであり、4月上旬に日程調整を予定している。

最後に、保坂委員長より以下のまとめが行われ、閉会した。

- ・自己評価報告書及び3回の本委員会での質疑応答と意見交換を通じて、本校が評価基準に則った自己評価をしっかりと行い、努力していることを改めて知ることができた。
- ・また、それに併せて、学校内部だけでなく、学校に関わる関係者がそれぞれの異なる目線で学校教育や運営に意見を申し上げる場としての、本委員会の役割の必要性を改めて認識した。
- ・評価基準の中にも関係者の意見を聴取することが規定されており、今日報告のあった職業実践専門課程の考え方からも今後益々重要なものになると思う。
- ・この機会を活かして、学校運営の継続的な改善に努めて欲しい。

以上

別紙

第3回学校関係者評価委員会の主な討議内容

6. 学校関係者評価委員会報告に基づく検討と改善の方向性についての質疑は以下の通り。

○最初に事務局より以下の報告が行われた。

○学校関係者評価委員会よりいただいた課題について、11月自己点検・自己評価委員会で進め方を検討し、12月学科長会議で確認後、12月校務運営会議において、平成25年度学校関係者評価報告と共に課題検討の進め方を決定した。また、職業実践専門課程申請の関係から、企業等委員である藤井委員からの提案（アンダーライン部分）を来年度の教育活動、学校運営の改善等に活用することを組織決定している。

○次に、学校関係者評価委員会からいただいた意見・検討課題とその取組、改善の進め方について以下の説明と意見交換が行われた。

I 重点目標

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
①社会人化教育を推進する具体的な年度の達成目標についても重点項目として記載、明記。	□平成26年度に向けて、TPC（考える：Think、積極性：Positive、対話力：Communication）の推進目標等について各学科の学科運営計画にも明示する。
②学科別の退学者の特徴、傾向なども分析することで、多方面からの予防策について検討。	□退学対策については、平成23年度以降の組織的な取組により成果を上げているが、より多面的なデータ分析を行うことで、実情の把握は勿論のこと、多様な対策にもつながることから平成26年度の学科長会議において検討する。
③学生の休暇期間等を有効かつ積極的に利用した研修計画の立案と柔軟な実施。	□教員研修については、教員の専攻分野における知識、技術、技能に関する研修と授業及び学生に対する指導力等に関する研修、また学生のメンタルヘルスに関する研修を平成26年度においても計画的に実施する。
④医療事務分野以外の学科についても資格取得、検定合格の全校的な目標値の可能性について検討。	□医療事務分野以外の学科についても、資格取得、検定合格等の目標値は学科運営計画に明記しており、平成26年度は学科運営計画に明記した目標値を全校提示する方向で検討する。

○以上の説明に対して以下の意見が提出された。

○①について、本校は専門教育と社会人化教育を進めているが、専門教育については具体的な目標や進め方が分かりやすく明示されているものの、社会人化教育についてはどうなのかということが趣旨だったように思う。TPCについては学科の目標にブレークダウンして是非進めてほしい。

II 項目別 3. 教育

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
⑤兼任講師との協力を今以上に進める工夫の検討。	□平成26年度の科会におけるテーマに取り上げる。兼任講師と常勤教員の情報交換を進めて、協力関係を工夫する。

<p>⑥指導をより効果的に進めるためにも資格・検定試験等に対する認識や知識のギャップの有無などについて、学生にアンケートなどで確かめてみることも検討課題である。</p>	<p>□卒業年次生に対して、在学中に受験、取得した資格・検定試験等について、学生生活に関する調査や内定届等を工夫、利用してアンケートを行うことなどを教務委員会、各学科、C S C等が協力して検討する。</p>
--	--

- 以上の説明に対して以下の意見が提出された。
- ⑤については、科会では具体的なテーマで意見交換をしたらと良いと思う。運営の工夫をして欲しい。
- 科会の開催頻度と途中経過についてはどのように情報交換しているのかとの質問があり、原則年2回の開催としているが、先生方の多忙もあって実情は多くの学科が年度初めの開催となっている。とは言え、学科長は必要に応じて、日常的に意見交換をしているとの説明が行われた。
- ⑥については、受験する資格、検定の選定、交通整理はどのように行っているのかとの質問があり、学科長が学科運営計画に明記して進めているとの説明が行われた。
- 資格、検定によっては年1回のものであれば数回実施されるものもある。どの学生がいつどの試験を受けるのかという情報が整理されて、提供されると、指導が効果的に行えると思う。また学生の試験に対するモチベーションにも高低があり、低いと結果が付いてこない実情があると思うので是非しっかりと説明してほしい旨の意見があり、これを受け⑥については、各学科長より以下の説明が行われた。
- 医療秘書科：受験のタイミングを見計らっている。先生方には4月科会、シラバス作成時に説明している。動機付けについては、今日のご意見を聞いていて、しっかりとアナウンスが少し不足していたのかもしれないと感じたので、来年に向けて改善を検討したい。
- 医療マネジメント科：担任の説明がまだ不十分と認識しており、改善を進めることにしている。教科担当の先生には情報提供しているが、直接関係のない先生には特にお知らせしていないので今後どうするか検討したい。
- 速記コンピュータ科：検定の重要性については折にふれて学科長から学生に説明している。関連する教科担当の先生方には情報提供し協力をお願いしているが、試験日程を科会等でお知らせはしていなかった。
- 鍼灸医療科：国家試験合格が目標。模擬試験も年数回実施している。兼任の先生にも模擬試験の結果をお知らせして、必要な指導をお願いしている。学生のやる気、モチベーションを第一として指導している。
- 介護福祉科：国家資格取得が目標。来年度入学生から国家試験の受験となるため現在準備を進めている。
- くすり調剤事務科：登録販売者をはじめとして5つの資格を目指している。就職後は資格を活かせることを常に説明し、先輩からも助言してもらうようにしている。ただ実務経験の現場で様々なことがありそれがモチベーションを下げてしまうことはある。

4. 学修支援

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
<p>⑦新たに法整備される予定のガン登録に対応できる人材など、現場の仕事内容の変化に応じた人材要望の把握や新しい仕事への対応。</p>	<p>□医療事務系における担当教員による実習巡回や就職内定訪問によるヒアリングは勿論のこと、法改正の動向も注視しながら、職業実践専門課程の教育課程編成委員会も利用して、現場の仕事内容に応じた人材要望を把握し、新しい仕事への対応を進める。</p>
<p>⑧就職後の卒業生の勤務動向、就業動向について</p>	<p>□平成26年度の業務計画に取り上げ、C S Cと関係部</p>

の情報の把握。	署が協力して効果的な実施に向けた検討を行う。
---------	------------------------

○以上の説明に対して以下の意見が提出された。

○⑦がん登録は法制化されたが、内容についてはまだ不明確なことが多い。後学校側へのニーズが明確になると思うので、是非積極的に対応してほしい。またD P C制度の適用も拡大されるので診療情報管理士の資格者が必要となる。今後の動向をしっかりと把握して準備、対応してほしい。

○⑧卒業生の動向調査については、結果をきちんとフィードバックできる活きた調査を是非実施してほしい。

○これに対して医療マネジメント科学科長より、専攻科ではそれを意識した科目の準備を進めている、また登録実務に就かれている卒業生を教員として採用したいことについて説明が行われた。また⑧卒業生動向については、医療マネジメント科では、2年制に比べてより専門性の高い専攻科卒業生の就業率が高いと認識しているとの説明が行われた。

5. 学生支援

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
⑨ネットを利用した各種の手続きや情報提供の卒業生サービスの検討。	□学務課における平成26年度の業務計画に取り上げ、校友会事務局と協力して、実現効果的な実施に向けた検討を行う。

○以上の説明に対して特に意見はなかった。

6. 教育環境

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
⑩多種多様な実習先の新規開拓。	□校外実習を実施している学科において、平成26年度の学科運営計画に明記して開拓を進める。
⑪医療事務系学科では、 <u>実習事前・事後指導を含むプログラムの見直し。</u>	□平成25年度の検討課題としていたが、病院実習の目標と実施すべき内容、指導資料等を校内の事前・事後指導の改善だけでなく、実習先への指導依頼にも活かせるように、平成25年度内に再整理する。
⑫学内感染の予防の観点から、インフルエンザ等の予防接種などは、提携先の病院など協力して積極的に行ってはどうか。	□感染症については、学校保健安全法に基づき対応しているが、予防接種に関しては、PR方法の改善を含めて検討する。

○以上の説明に対して特に意見はなかった。

○⑩について医療マネジメント科学科長より、2年制と専攻科共に拡大を目標として計画していることについて説明が行われた。

7. 学生募集

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
⑬高校の教員や保護者世代には、伝統と実績のある学校として認知されてはいるが、そのことを積極的に高校生世代へ伝え、今以上に知名度を上げる努力。	□本校は平成26年度に学園創立80周年を迎える。これを積極的に利用して、本校の伝統と実績を高校生世代へ明確に伝える様々な工夫を広報室を中心に進める。

○以上の説明に対して以下の意見が提出された。

○学生募集のルールについて改めて教えてほしいとの質問があり、本校も加盟している東京都専修学校各種学校協会における募集時期のルールについて説明が行われた。

9. 法定遵守

学校関係者評価委員会からの意見・検討課題	課題への取組、改善の進め方
⑭ 高校の進路指導に向けて正確な情報を伝える意味からも、透明度を高めて欲しい。	□ ガイドラインに従った本校の教育と学校運営の情報を適正に進めることは勿論のこと、公表データの管理を適切に行う仕組みを検討する。

○以上の説明に対して特に意見はなかった。

○委員長より、本日確認した内容を確実に進めてほしいとのまとめが行われ、学校関係者評価委員会報告に基づく検討と改善の方向性について確認、了承された。

以上